

R1年度介護ロボット等導入事例

導入した介護ロボット等の情報

種別	商品名	メーカー名
見守り	バイオネクスト	(株)バイオシルバー

導入した事業所の情報

利用定員数	介護サービスの種類
50人	介護老人福祉施設

使用状況及び導入効果等

<p>①介護ロボットの使用状況（使用した業務・使用頻度等）</p> <p>○徘徊などによって転倒するリスク及びベッドからの滑落リスクがある利用者の方の居室に機器を設置し、ベッド上での状態変化を携帯端末で把握することによって、状況に応じた対応を行っている。</p>
<p>②介護ロボットの導入によって得られた効果 ※介護時間の短縮、軽減効果、介護従事者(利用者)の満足度等</p> <p>○見守り機能によるスタッフの業務負担の軽減 ・夜勤時の見廻りの効率化を図ることができた。(見廻りのための訪室回数が30%削減) ・転倒リスクの回避、トイレ誘導・排せつ介助のタイミングを見極めることにより、心理的負担の軽減や事後の追加業務の発生を未然に防ぐことができた。</p>
<p>③介護ロボット導入に関しての介護従事者の意見 ※介護ロボット導入前との介護業務に係る負担の比較、使い勝手等</p> <p>○見廻りの効率化が図られることにより、従来、見廻りしていた時間帯を別業務に振り替えることができ、業務全体の効率が良くなった。</p>
<p>④次年度以降の介護ロボットの使用計画 ※①、②、③を踏まえたうえで、より効果的な次年度以降の使用計画</p>

R1年度介護ロボット等導入事例

導入した介護ロボット等の情報

種別	商品名	メーカー名
見守り	ベッドコールNポケット	(株)テクノスジャパン

導入した事業所の情報

利用定員数	介護サービスの種類
50人	介護老人福祉施設

使用状況及び導入効果等

<p>①介護ロボットの使用状況（使用した業務・使用頻度等）</p> <p>○徘徊などによって転倒するリスク及びベッドからの滑落リスクがある利用者の方の居室に機器を設置し、ベッド上での状態変化を携帯端末で把握することによって、状況に応じた対応を行っている。</p>
<p>②介護ロボットの導入によって得られた効果 ※介護時間の短縮、軽減効果、介護従事者(利用者)の満足度等</p> <p>○見守り機能によるスタッフの業務負担の軽減 ・夜勤時の見廻りの効率化を図ることができた。 ・転倒リスクの回避、トイレ誘導・排せつ介助のタイミングを見極めることにより、心理的負担の軽減や事後の追加業務の発生を未然に防ぐことができた。</p>
<p>③介護ロボット導入に関しての介護従事者の意見 ※介護ロボット導入前との介護業務に係る負担の比較、使い勝手等</p> <p>○見廻りの効率化が図られることにより、従来、見廻りしていた時間帯を別業務に振り替えることができ、業務全体の効率が良くなった。</p>
<p>④次年度以降の介護ロボットの使用計画 ※①、②、③を踏まえたうえで、より効果的な次年度以降の使用計画</p>

R1年度介護ロボット等導入事例

導入した介護ロボット等の情報

種別	商品名	メーカー名
見守り	ベッドコールケーブルタイプ BC-2	(株)テクノスジャパン

導入した事業所の情報

利用定員数	介護サービスの種類
25人	小規模多機能型居宅介護

使用状況及び導入効果等

<p>①介護ロボットの使用状況（使用した業務・使用頻度等）</p> <p>○動きのある利用者を対象として使用することにより、センサー反応で行動の確認や、必要な介助の検討を行うことができた。</p> <p>○ベッド上で使用しているが、動作が不安定で見守り・介助が必要な利用者やナースコールを使用しない利用者にも使用することにより、センサーの反応で行動を把握し、対応できた。</p>
<p>②介護ロボットの導入によって得られた効果</p> <p>※介護時間の短縮、軽減効果、介護従事者(利用者)の満足度等</p> <p>○利用者の行動を抑制することなくセンサーの反応で動作を早めに知り対応することで、安全な環境が確保できている。</p> <p>○センサーの利用によって夜間帯などの人手が少ないときも必要時に関わることができ、介護の手間が軽減できた。</p>
<p>③介護ロボット導入に関しての介護従事者の意見</p> <p>※介護ロボット導入前との介護業務に係る負担の比較、使い勝手等</p> <p>○利用者の転倒・転落のリスクの軽減を図ることができた。</p> <p>○夜間帯においては職員が少なくなるため、リスクが回避できることで介護負担や精神的負担が軽減できる。</p>
<p>④次年度以降の介護ロボットの使用計画</p> <p>※①、②、③を踏まえたうえで、より効果的な次年度以降の使用計画</p> <p>より効果的に使用するために対象者の選定方法を検討する。</p>

R1年度介護ロボット等導入事例

導入した介護ロボット等の情報

種別	商品名	メーカー名
見守り	見張り番ⅡNCセットコードレスフロアMサイズ	(株)エクセルエンジニアリング

導入した事業所の情報

利用定員数	介護サービスの種類
100人	介護老人保健施設

使用状況及び導入効果等

<p>①介護ロボットの使用状況（使用した業務・使用頻度等）</p> <p>歩行不安定な利用者や、徘徊・ナースコールの認識がない多動で転倒や骨折のリスクの高い利用者の居室に機械を設置し、早期に気づき職員が駆けつけることにより転倒のリスクを軽減している。</p>
<p>②介護ロボットの導入によって得られた効果 ※介護時間の短縮、軽減効果、介護従事者(利用者)の満足度等</p> <p>○夜勤時、他の利用者の訪室時等の際に機械の使用によって、早期に離床を気づくことができる。 ○転倒リスクの軽減になっている。 ○コードレスにすることにより、利用者が違和感を感じることなく使用できている。</p>
<p>③介護ロボット導入に関しての介護従事者の意見 ※介護ロボット導入前との介護業務に係る負担の比較、使い勝手等</p> <p>○早期に離床を気づくことができ、安全に対応できている。 ○夜間帯の不安が軽減できている。</p>
<p>④次年度以降の介護ロボットの使用計画 ※①、②、③を踏まえたうえで、より効果的な次年度以降の使用計画</p> <p>利用者がすり抜け、コールが鳴らず居室から出てきた事例もあるため、利用者の動線や機械の種類をよく検討し、設置することとする。</p>

R1年度介護ロボット等導入事例

導入した介護ロボット等の情報

種別	商品名	メーカー名
見守り	見守りケアシステムM2内蔵低床3 モーターベッド	フランスベッド(株)

導入した事業所の情報

利用定員数	介護サービスの種類
100人	介護老人保健施設

使用状況及び導入効果等

<p>①介護ロボットの使用状況（使用した業務・使用頻度等）</p> <p>○転倒リスクがある利用者や徘徊リスクがある利用者の居室に本器を8台設置。 ○ベッドに内蔵されたセンサーにより利用者がベッドからの離床動作(起き上がったたり、端座位をとったり)をセンサーで検知しナースコールへ通知することが可能で、必要なタイミングでの確認・見守りといった対応を行っている。</p>
<p>②介護ロボットの導入によって得られた効果 ※介護時間の短縮、軽減効果、介護従事者(利用者)の満足度等</p> <p>○見守り機能によるスタッフの業務負担の軽減 ・日勤及び夜勤帯における見廻りの業務負担の軽減を図ることができた。 ・従来、体動の多い方の見廻りが15分毎に必要であったのが、本機導入により訪室回数が2分の1程度に削減することができ、また利用者の安眠につながる効果があった。 ○事故防止効果 ・転倒リスクの低減につながり、利用者の骨折等の事故防止効果が期待できる。 ・職員の事故発生に対する不安感も軽減することができた。</p>
<p>③介護ロボット導入に関しての介護従事者の意見 ※介護ロボット導入前との介護業務に係る負担の比較、使い勝手等</p> <p>○見廻り時間の短縮により、従来、見廻りに要した時間を別業務に振り替えることができ、業務の負担軽減と業務全体の効率化が図れた。 ○従来の離床センサーとは違い、センサー部がベッド本体に設置されているために、センサーのセット位置を気にする必要もなく、利用者の体動特性に合わせてセンサーの設定が可能で利便性が良い。また、機器周辺の配線処理も簡素化されているため、配線に引っかかる恐れもなく、安全性も向上し、断線等の機器の故障も減少すると考えている。 ○体重測定機能もあるため、体重計に移乗することなく測定できるので、業務負担が軽減された。</p>
<p>④次年度以降の介護ロボットの使用計画 ※①、②、③を踏まえたうえで、より効果的な次年度以降の使用計画</p> <p>○職場内での実習や研修を行い、機器の機能、適切な使用方法等の周知、徹底を図る。 ○利用者の体動等の行動特性を把握、分析し、利用者の転倒事故防止と、より効率的な見守り方法を見出すために、当機器のログ解析機器の有効活用を図る。</p>

R1年度介護ロボット等導入事例

導入した介護ロボット等の情報

種別	商品名	メーカー名
見守り	見守りケアシステムM2内蔵低床サイドアップ3モーターベッド	フランスベッド(株)

導入した事業所の情報

利用定員数	介護サービスの種類
9人	認知症対応型共同生活介護

使用状況及び導入効果等

<p>①介護ロボットの使用状況（使用した業務・使用頻度等）</p> <p>転倒リスクがある利用者の方の居室に介護ロボットを設置し、ベッドに内蔵されたセンサーにより、利用者がベッドからの離床動作をセンサーで検知し、ナースコールへ通知され、介助が必要なタイミングでその状況に応じた見守り、介助等を行っている。</p>
<p>②介護ロボットの導入によって得られた効果 ※介護時間の短縮、軽減効果、介護従事者(利用者)の満足度等</p> <p>○ベッドに内蔵された見守り機能により、利用者の転倒リスクを回避することができ、その状況に応じ必要なタイミングで確認、見守り介助をすることができた。 ○介護ロボットの導入により、利用者の安全が確保され、安心した生活を送れると同時に介護職員の身体的負担や心理的負担を軽減させることができ、仕事に対する意欲が高まった。</p>
<p>③介護ロボット導入に関しての介護従事者の意見 ※介護ロボット導入前との介護業務に係る負担の比較、使い勝手等</p> <p>○介護ロボット導入により、必要なタイミングで対応できるようになり、介護業務の負担が軽減され、効率よく仕事できるようになった。 ○介護職員も身体的、精神的な負担が軽減されることにより、ゆとりができて職場の雰囲気も明るくなった。</p>
<p>④次年度以降の介護ロボットの使用計画 ※①、②、③を踏まえたうえで、より効果的な次年度以降の使用計画</p> <p>これからも利用者が安全で安心して生活していただけるように、また介護職員も身体的、精神的負担が減り、いきいきと働けるように継続して使用していく。</p>

R1年度介護ロボット等導入事例

導入した介護ロボット等の情報

種別	商品名	メーカー名
見守り	床センサー 家族コール3A・シンプル	(株)テクノスジャパン

導入した事業所の情報

利用定員数	介護サービスの種類
80人	介護老人福祉施設

使用状況及び導入効果等

<p>①介護ロボットの使用状況（使用した業務・使用頻度等）</p> <p>○徘徊などによって転倒するリスクがある利用者のベッドサイドに機器を設置。 ○利用者が起き上がりやベッドサイドからの立ち上がりの際、足をセンサーの上に降ろすことでセンサーが反応するので状況に応じた対応ができています。</p>
<p>②介護ロボットの導入によって得られた効果 ※介護時間の短縮、軽減効果、介護従事者(利用者)の満足度等</p> <p>○介護スタッフの心理的負担の軽減 ○常時、見守り介助の必要な方に機器を使用することで、見守りスタッフが1人と考えられるので、業務負担の軽減につながっている。 ○トイレ誘導・排泄介助のタイミングを見極めることができる。</p>
<p>③介護ロボット導入に関しての介護従事者の意見 ※介護ロボット導入前との介護業務に係る負担の比較、使い勝手等</p> <p>○特に夜勤業務時は限られた人員での業務になるため、導入前は他の入所者の排泄介助等落ちついていけないことが多々あった。導入後は、落ち着いて介助することができ、効率もよくなったように感じられるのと心理的な負担が軽減された。</p>
<p>④次年度以降の介護ロボットの使用計画 ※①、②、③を踏まえたうえで、より効果的な次年度以降の使用計画</p> <p>転倒されたケースがあったことからセンサーに頼り切らず、巡回を強化していくための1つのツールとして使用していく。</p>

R1年度介護ロボット等導入事例

導入した介護ロボット等の情報

種別	商品名	メーカー名
見守り	離床センサー「iサポート」機能搭載 ベッド	シーホネンス(株)

導入した事業所の情報

利用定員数	介護サービスの種類
100人	介護老人福祉施設

使用状況及び導入効果等

<p>①介護ロボットの使用状況（使用した業務・使用頻度等）</p> <p>○徘徊などによって転倒するリスクがある利用者の方の居室に機器を設置。 ○利用者のベッド上での状態変化をベッド付属の離床センサーで把握することによって、介護職員の負担軽減を図れている。 ○当該ベッドを使用することによって、利用者の徘徊等による転倒リスクを軽減し、介護サービスの質の向上を図れている。</p>
<p>②介護ロボットの導入によって得られた効果 ※介護時間の短縮、軽減効果、介護従事者(利用者)の満足度等</p> <p>○早めに利用者の動きを把握できることでの安心感など、精神的な負担感が減ったという職員がほとんどであった。 ○早朝など事故が多発する時間帯の滑落などの事故が半分以下に減っている。</p>
<p>③介護ロボット導入に関しての介護従事者の意見 ※介護ロボット導入前との介護業務に係る負担の比較、使い勝手等</p> <p>○ナースコールと連動しているので、いらないコードなどが出なくて事故にならない。 ○ベッドと一体型なので、利用者やその家族も違和感なく使用できるので、職員が説明する際の負担感も少ない。</p>
<p>④次年度以降の介護ロボットの使用計画 ※①、②、③を踏まえたうえで、より効果的な次年度以降の使用計画</p> <p>○新規の利用者や認知の状況などを踏まえ、センサーベッドを効果的に利用して、事故のリスク軽減を図り、ADL低下防止に努める。 ○夜勤帯などの少人数での介護時の精神的な負担軽減を図る。</p>

R1年度 ICT導入事例

導入したICTの情報

種別	商品名	メーカー名
ICT	介護ソフト「ほのぼのNEXT」 タブレット「iPad mini 64GB」	NDソフトウェア(株) アップル

導入した介護事業所の情報

利用定員数	介護サービスの種類
100人	介護老人福祉施設

使用状況及び導入効果等

本製品を選んだ理由や使ってみての感想
<p>○介護ソフト:ノートパソコンでは以前から「ほのぼのNEXT」を使っていたこともあり、ICT機器になじみのない職員でも使うことができた。</p> <p>○タブレット:ICT機器になじみのない職員が慣れるまでは入力に時間がかかったものの、慣れれば手書きするよりも早くきれいに記録をとることができるようになった。職員からは、軽くと持ち運びがしやすいとの声も聞かれた。</p>

導入効果	
Q1. ICTの導入により間接業務(※)の時間が短縮されたか。 (※)移動や書類の記入など、直接ケアにあたらぬ業務をいう。	A. 短縮された
Q2. ICT導入により1人あたりの間接業務の時間は何分削減されたか。	A. 1か月あたり10分
Q3. ICT導入によりケア記録等の書類(※)の量を削減することができたか。 (※)サービス提供記録、アセスメント結果やモニタリングに関する記録等、事業所が作成・保管する記録をいう。	A. 削減された
Q4. ICT導入により、どのくらいのケア記録等の書類を削減できたか。 (1事業所あたり1か月の平均)	A. 1割以上～2割未満
Q5. ICT導入により、事業所外との情報連携が円滑になったか。	A. 円滑にならなかった
Q6. ICT導入により、事業所内(職員間)の情報共有が円滑になったか。	A. 円滑になった
Q7. ICT導入により、請求時の転記誤り等の単純な誤りが減少したか。	A. 変化しなかった
Q8. ICT導入により、直接ケアにあたる時間が増加したか。	A. 増加した
Q9. その他ICT導入による成果・課題	

R1年度 ICT導入事例

導入したICTの情報

種別	商品名	メーカー名
ICT	スマートフォン「iPhone11ProMax」 タブレット「iPad Pro」	アップル

導入した介護事業所の情報

利用定員数	介護サービスの種類
45人	居宅介護支援

使用状況及び導入効果等

本製品を選んだ理由や使ってみての感想
<p>○スマートフォン:直感的で操作が分かりやすく、ICT機器になじみのない職員でも使うことができた。また、操作でわからないところがあれば24時間いつでも問い合わせられる等、サポート体制が非常に充実していて助かった。</p> <p>○タブレット:価格が安く、1人1台の導入がしやすいため本製品を導入した。ICT機器になじみのない職員が慣れるまでは、入力に時間がかかったものの、慣れれば手書きをするより早くきれいに記録をとることができるようになった。職員からは軽くて持ち運びがしやすいとの声も聞かれた。</p>

導入効果	
Q1. ICTの導入により間接業務(※)の時間が短縮されたか。 (※)移動や書類の記入など、直接ケアにあたらない業務をいう。	A. 短縮された
Q2. ICT導入により1人あたりの間接業務の時間は何分削減されたか。	A. 1か月あたり60分
Q3. ICT導入によりケア記録等の書類(※)の量を削減することができたか。 (※)サービス提供記録、アセスメント結果やモニタリングに関する記録等、事業所が作成・保管する記録をいう。	A. 削減された
Q4. ICT導入により、どのくらいのケア記録等の書類を削減できたか。 (1事業所あたり1か月の平均)	A. 6割以上7割未満
Q5. ICT導入により、事業所外との情報連携が円滑になったか。	A. 円滑になった
Q6. ICT導入により、事業所内(職員間)の情報共有が円滑になったか。	A. 円滑になった
Q7. ICT導入により、請求時の転記誤り等の単純な誤りが減少したか。	A. 減少した
Q8. ICT導入により、直接ケアにあたる時間が増加したか。	A. 増加した
Q9. その他ICT導入による成果・課題	
A. 利用者へのケアについて職員同士で話し合う時間を作ることができ、ケアの質が向上した。	

R1年度 ICT導入事例

導入したICTの情報

種別	商品名	メーカー名
ICT	インカム「特定小電カトランシーバー」	アイコム(株)

導入した介護事業所の情報

利用定員数	介護サービスの種類
80人	介護老人福祉施設

使用状況及び導入効果等

本製品を選んだ理由や使ってみての感想
<p>○職員間の連絡体制の無駄を減らし、業務の効率性を高め、職員の負担を軽減するために導入した。</p> <p>○誰にでも使いやすく、些細なことでもこまめに連絡を取り合うことができ、無駄な動きを減らせるようになった。</p> <p>○イヤホンをつけっぱなしにするため、周りの音が聞こえにくいとの意見もある。</p>

導入効果	
Q1. ICTの導入により間接業務(※)の時間が短縮されたか。 (※)移動や書類の記入など、直接ケアにあたらない業務をいう。	A. 変わらなかった
Q2. ICT導入により1人あたりの間接業務の時間は何分削減されたか。	A. 1か月あたり0分
Q3. ICT導入によりケア記録等の書類(※)の量を削減することができたか。 (※)サービス提供記録、アセスメント結果やモニタリングに関する記録等、事業所が作成・保管する記録をいう。	A. 変わらなかった
Q4. ICT導入により、どのくらいのケア記録等の書類を削減できたか。 (1事業所あたり1か月の平均)	A. 1割以下
Q5. ICT導入により、事業所外との情報連携が円滑になったか。	A. 円滑にならなかった
Q6. ICT導入により、事業所内(職員間)の情報共有が円滑になったか。	A. 円滑になった
Q7. ICT導入により、請求時の転記誤り等の単純な誤りが減少したか。	A. 変わらなかった
Q8. ICT導入により、直接ケアにあたる時間が増加したか。	A. 変わらなかった
Q9. その他ICT導入による成果・課題	
A. 職員間の連絡や情報交換がしやすくなり、以前に比べ業務を無駄なく効率的に行えるようになった。	